



平成 20 年 10 月 17 日

各 位

株式会社三井住友フィナンシャルグループ
(コード番号 8316)

当社連結子会社（株式会社みなと銀行）の業績予想及び配当予想の修正について

当社の連結子会社である株式会社みなと銀行が、平成 20 年 7 月 31 日に公表した平成 21 年 3 月期の業績予想及び配当予想を別添資料のとおり修正しましたので、お知らせ致します。

以 上



平成20年10月17日

各 位

会社名 株式会社 みなと銀行
 代表者名 取締役頭取 藪本 信裕
 (コード番号 8543 東証・大証第一部)
 問合せ先 常務取締役企画部長 今西 昭文
 (TEL 078-333-3224)

平成21年3月期 業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成20年7月31日に公表しました平成21年3月期の業績予想及び配当予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 連結業績予想の修正

①平成21年3月期第2四半期連結累計期間 連結業績予想数値の修正 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	37,400	2,500	△600
今回修正予想 (B)	38,100	△3,100	△4,500
増減額 (B) - (A)	700	△5,600	△3,900
増減率(%)	1.9%	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	40,881	6,958	3,726

②平成21年3月期通期 連結業績予想数値の修正 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	75,200	8,300	2,500
今回修正予想 (B)	74,700	△3,500	△5,800
増減額 (B) - (A)	△500	△11,800	△8,300
増減率(%)	△0.7%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	81,610	8,770	5,757

(2) 個別業績予想の修正

①平成21年3月期第2四半期累計期間 個別業績予想数値の修正 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	34,800	2,500	0
今回修正予想 (B)	35,200	△2,800	△3,600
増減額 (B) - (A)	400	△5,300	△3,600
増減率(%)	1.1%	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	36,794	6,211	3,084

②平成21年3月期通期 個別業績予想数値の修正 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位: 百万円)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	69,900	8,100	3,000
今回修正予想 (B)	69,000	△3,300	△5,000
増減額 (B) - (A)	△900	△11,400	△8,000
増減率(%)	△1.3%	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	73,587	7,342	4,229

2. 第2四半期累計期間並びに通期業績予想修正の理由

(1) 個別

景気低迷にともなう不動産業を中心とした取引先の倒産、業況悪化により第2四半期累計期間の与信関係費用が前回予想比60億円増加する見込みであります。また、第3四半期以降の与信関係費用は、大口先の影響は軽減されるものの、一方で景気後退感が強まるなか、今後、幅広い業種での経営環境の悪化も予想されるため、見直しを行いました。

これに伴い、通期の与信関係費用が前回予想比99億円増加することに加え、投資信託販売等の役務取引等収益の見込みを足元の状況にあわせて見直したこと等により、第2四半期累計期間並びに通期の業績予想を修正するものです。

(ご参考)

①平成21年3月期第2四半期累計期間 個別業績予想数値 (単位：百万円)

	前回予想	今回予想	差異
業務粗利益	27,000	27,300	300
経費(除く臨時処理分)	△16,700	△16,700	0
業務純益(一般貸倒繰入前)	10,300	10,600	300
一般貸倒引当金繰入額(a)	△900	△1,600	△700
業務純益	9,400	9,000	△400
不良債権処理費用(b)	△6,600	△11,900	△5,300
経常利益	2,500	△2,800	△5,300
中間純利益	0	△3,600	△3,600
※与信関係費用(a+b)	△7,500	△13,500	△6,000

②平成21年3月期通期 個別業績予想数値 (単位：百万円)

	前回予想	今回予想	差異
業務粗利益	55,000	53,800	△1,200
経費(除く臨時処理分)	△33,200	△32,700	500
業務純益(一般貸倒繰入前)	21,800	21,100	△700
一般貸倒引当金繰入額(a)	△2,200	△3,800	△1,600
業務純益	19,600	17,300	△2,300
不良債権処理費用(b)	△11,100	△19,400	△8,300
経常利益	8,100	△3,300	△11,400
当期純利益	3,000	△5,000	△8,000
※与信関係費用(a+b)	△13,300	△23,200	△9,900

(2) 連結

主に個別業績予想の修正によるものであります。

(ご参考) 自己資本比率の見込み

平成20年9月末及び平成21年3月末の自己資本比率は、連結・単体ともに9%程度と予想しております。

3. 期末配当予想の修正

(1) 修正の内容

	1株当たり配当金	
	期末	年間
前回発表予想	4円00銭	4円00銭
今回修正予想	0円00銭	0円00銭
(ご参考) 前期実績 (平成20年3月期)	4円00銭	4円00銭

(2) 配当予想修正の理由

今回の業績予想の修正に伴い、通期においても単体で50億円の当期純損失を計上する見通しとなったことにより、誠に遺憾ではございますが、平成21年3月期の配当予想を無配に修正させていただきたいと存じます。

4. 役員報酬の減額について

今回の業績予想並びに配当予想の修正を踏まえ、当面の間、役員報酬を最大で30%減額することといたしました。

5. 今後の対応について

(1) 与信関係費用の抑制

昨年より審査体制を見直し、与信管理強化に取り組んでまいりましたが、さらに10月より審査部門の大幅人員増強を図り、個別与信先のモニタリング体制、大口与信先の集中審査体制、企業再生支援体制などを強化いたしました。

また、建設・不動産業などについては、従来から集中管理を目的として専任担当グループを設置しておりますが、今般、新しく審査第三部として独立させ、より一層の機能強化と情報の集約化を図る体制といたしました。

これらにより、集中リスクの管理強化や業種別リスクの早期把握に努め、貸出金ポートフォリオの再構築を図り、与信関係費用を抑制してまいります。

(2) 経費削減

下期より人件費や物件費の削減を実施いたします。これにより、来年度以降の粗利経費率(OHR)の中期経営計画60%未満を達成できる目途を立てております。

(3) 更なる営業力の強化

投資信託販売などマーケットの影響による役務取引等利益の減少はあるものの、今年度も業務純益(一般貸倒繰入前)は200億円台を確保する見込みであります。

今後の安定的な利益の確保を図るため、将来の核となる企業の新規開拓に下期以降も一層注力するとともに、順調な伸びを示している個人年金販売の強化等に努めてまいります。

今回の業績予想並びに配当予想の修正につきましては、役職員一同厳粛に受け止め、株主さま・お客さま・地域の皆さまのご期待に沿うべく、諸施策について真摯に取り組み、来年度での業績の回復・復配を目指してまいります。今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

以 上

上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる場合があります。